

	課題分析	授業改善策
国語	学力調査では全国や東京都の平均を上回っている。 授業の進度やわかりやすさ、課題の量については、肯定的な意見が多い。授業内での話し合い活動や意見交換を通じて、考えを深めたり伝え合ったりする機会増やし、表現力、思考力を高めることが課題である。	協働的な学習や言語活動を多く取り入れ、場面に応じた言語活用を通して、授業をより活性化させる。また対話を通して考えを深めたり広げたりする機会を多く持たせる。予習、復習など家庭での学習が授業につながるよう課題の提示のしかたも工夫する。
社会	授業のわかりやすさについては肯定的な意見が多く、生徒にとって「わかる授業」を展開できている。 より社会科としての能力を育成するために、思考力を育成することが課題であると考えられる。	社会的思考力を育成するために、他者との共同が必要である。ペアワークや複数人による作業のほか、ICTを活用して、学級全体で共有するという方法が考えられる。課題によって、最適な共同の在り方を展開していく。
数学	・学力調査では全国や東京都の平均を上回っている。 ・教師の説明や板書については肯定的な回答が多く、授業内容を分かりやすく伝えることができている。 - 一方で、授業内で「できた」と実感する機会や学んだことを活用する場面が少ない。 ・授業に前向きに取り組む生徒が多くみられる一方で、授業の復習や家庭学習に取り組む習慣が十分にみついていない生徒もいる。 ・学習内容の理解や定着をさらに高めるために、学んだことを活用し、学習の成果を実感できる場面を増やしていく必要がある。	・学習内容を活用する課題や探究活動を取り入れ、「できた」と実感できる場面を増やす。 ・授業の最後に振り返りを行い、学習内容の理解・定着を確認する。 ・小テストや家庭学習を活用し、復習する習慣を身に付けさせる。
理科	・授業中に話し合いの場面を多く設定できているが、授業と関係ない私語をしている生徒をすべて注意することができない場面があった。 ・実験では、準備から実習、片付けまでほかの班員に任せきりになり、学習内容に対して主体的に取り組めていない生徒が一部存在した。	・授業中で周りとは話す際のルールを明確にして、授業と関係ない私語はしないように伝えていく。 ・実験を実施する際に役割分担が可能であれば、教員側で設定する。また、教員の机間指導の中で個人ごとに取り組む方を確認し、適切に声掛けをしていく。 ・理科の見方・考え方を働かせる課題や問いを意識した授業を展開する。
音楽	・授業への肯定的な意見が多かったが、話し合い活動の時間が全体を通し少なかった。 ・実技において、苦手意識をもつ生徒への個別の支援や音楽の基礎的な知識をしっかりと習得させるまでの反復学習が今後必要である。	・自分の考えや意見を伝えることや、他者の意見を聞く機会を多く設けることで、様々な感じ方や考え方を知るきっかけを作っていく。 ・実技テストなどでは個人の目標を明確にし、達成へ向けての助言を丁寧に行う。また、授業の最後に振り返りの時間を設け、改善点を次の授業へ活かしていく。
美術	・制作に集中する時間と相談する時間を設定し、活動のメリハリが概ねあるが、相談が雑談になってしまう生徒がいたり、相談と集中する適切な時間に個人差がある。 ・授業の時間は「ちょうどよい」と答える生徒が多いが、足りない生徒もいて、授業時間の設定に工夫が必要。	・相談はより良い作品を制作するためのものであり、目的意識をしっかりと持って取り組めるように指導する。 ・授業時間を余裕持って設定し、進みが早い生徒には特別課題を用意するなどして調整する。 ・振り返りの時間を十分とり、見通しをもたせる。

保健体育	・授業のわかりやすさ、授業の進むスピードにおいては肯定的な意見が多くみられた。 ・実技が「できた」を実感することについては、実技の特性もあり実感できた人の人数が減少傾向である。	・実技の練習時間確保のため、授業内の説明を簡潔にしポイントを絞った指導を行う。 ・1人1人が「できた」を実感するために、目標を細分化、そして練習方法や練習場所を多く設定する。
技術・家庭	・生活体験が少ないため、視覚的教材が少ないと理解しにくいことが多い。 ・ものづくりでは、自らの課題を把握し、様々な方法を探り改善していく力を伸ばしていく。	・視覚的な教材を活用するとともに、実習教材を精選し1つの題材の中で自ら課題を見だし、工夫して完成させたことを実感できるようにする。 ・授業の中で、基礎的な技能の確実な定着を図るとともに、他者との意見交換をする時間を設定する。
外国語（英語）	学力調査では、「日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうか」の観点の問題への困難さを示した。 授業への意欲や進行、意見交換は概ね好評だが、達成感の不足と復習不足の生徒の存在が課題である。生徒の実情に応じた課題やゴールを設定して「できた」という達成感を高めるとともに、話し合いの拡充や復習の定着に向けた指導の工夫が必要である。	授業では明確なゴールを提示し、短時間のペアワークを組み込んで達成感を共有させる。終わりに振り返りシートで成長を可視化し、負担の少ない要約課題で自立的な学習を促す。積極的にアンケートや振り返りを行い、生徒の意見をその後の授業に取り入れていく。また、技能統合型の言語活動を通して実用的な英語力を育む。